

令和7年度

横浜創英大学

[看護学部 看護学科]

学校推薦型選抜入学試験（I期）

基礎総合

令和6年11月17日(日)

(注意事項)

1. 「始め」の指示があるまで問題冊子を開いてはいけません。
2. 指示があったら解答用紙に受験番号、氏名を記入してください。
3. 問題は1ページから6ページまであります。
落丁、乱丁、印刷の不鮮明な箇所があった場合は、静かに手をあげて試験監督者に連絡してください。
4. 解答にはHB又はBの黒色エンピツ、シャープペンシルを使用してください。
5. 試験開始後は退室できません。

問題 I

設問 次の各問いに答えなさい。

(1) 次の文章の主旨として最も適当なものを、下の①～⑤の中から選び番号で答えなさい。

(佐藤 仁「争わない社会『開かれた依存関係』をつくる」から。)

(一部表記を改めたところがある。)

- ① 産業化によって人々が豊かになったことで、社会の中の共同的な要素が必要ではなくなっていった。
- ② 近代化に際し共同体解体を進めた国家のもとで、共同体からの自立を求める個人が増加していった。
- ③ 近代化の流れの中で、社会における個人の役割が大きくなり諸個人が共同体から切り離されていった。
- ④ 国家が強大になっていくと同時に、社会においては個人の自立に重きを置く風潮が強まっていった。
- ⑤ 明治政府はすべての人間を「国民」として一元的に管理し、個人の時代を創設しようとしていった。

(2) 次の①～④の各文中の下線をつけた漢字の読み方を、ひらがなを使って現代仮名遣いで書きなさい。

- ① 彼の祖父は会社の総帥であった。
- ② 私の心の琴線に触れる名曲であった。
- ③ 山間の溪流で涼をとる。
- ④ 彼の生涯は運命に翻弄されていた。

(3) 次の①～④の各文中の下線をつけたカタカナを、漢字で書きなさい。

- ① 労使間のコウシヨウは決裂した。
- ② 彼は資金集めにキョウホンした。
- ③ 首相が交代し政策が大きくテンカンした。
- ④ 太平洋をヨットでハンソウする。

(4) 次のア～オのことわざや慣用句のうち似た意味を持つものの組み合わせを、下の①～⑤の中から
選び番号で答えなさい。

- ア ^{かっぱ}河童の川流れ
- イ 後の祭
- ウ 泣き面に蜂
- エ 青天の^{へきれき}霹靂
- オ 寝耳に水

- ① ア、ウ
- ② ア、エ
- ③ イ、ウ
- ④ イ、オ
- ⑤ エ、オ

(5) 次のア～オの各文を意味の通じるように並べ替えたものとして最も適するものを、下の①～⑤の
中から選び番号で答えなさい。

ア
イ
ウ
エ
オ

(会田薫子「長寿時代の医療・ケア - エンドオブライフの論理と倫理」から。)

- ① ア → イ → ウ → エ → オ
- ② イ → ア → エ → オ → ウ
- ③ ウ → エ → ア → オ → イ
- ④ エ → イ → オ → ウ → ア
- ⑤ オ → ア → エ → イ → ウ

問題Ⅱ

設問 次の各問いに答えなさい。

- (1) 一定の規則に従って並んでいる次の数列の第24項の値と第32項の値の差を、下の①～⑤の中から
選び番号で答えなさい。

数列 1, 5, 9, 13, 17, 21, …

- ① 16
- ② 32
- ③ 48
- ④ 64
- ⑤ 72

- (2) 濃度6.0%の食塩水400gに水を加えて、濃度3.2%の食塩水をつくりたい。加える水の量を、次の
①～⑤の中から選び番号で答えなさい。

- ① 200g
- ② 250g
- ③ 300g
- ④ 350g
- ⑤ 400g

- (3) 輸液500mLを静脈内注射により3時間20分で投与するよう医師から指示があった。20滴で1 mL
が滴下する輸液セットを使用したときの1分間の滴下数を、次の①～⑤の中から選び番号で答えな
さい。

- ① 40滴
- ② 45滴
- ③ 50滴
- ④ 55滴
- ⑤ 60滴

(4) 32チームで野球の試合をする。まず、32チームを四つのブロックに分けトーナメント戦を行いそれぞれのブロックの勝者を決定する。次に、ブロックの勝者の4チームにより1回戦制のリーグ戦を行い優勝チームを決定する。優勝チームが決まるまでの試合数を、次の①～⑤の中から選び番号で答えなさい。なお、リーグ戦は1回戦制で必ず優勝チームが決定するものとします。

- ① 28試合
- ② 30試合
- ③ 32試合
- ④ 34試合
- ⑤ 36試合

(5) パン屋で140円、180円、220円の3種類のパンを買って合計金額が3,800円になった。3種類のパンの合計が22個で、このうち9個が140円のパンであるとき220円のパンの個数を、次の①～⑤の中から選び番号で答えなさい。

- ① 2個
- ② 3個
- ③ 4個
- ④ 5個
- ⑤ 6個

問題Ⅲ

設問 次の表1、表2及び図1は、厚生労働省の「令和5年賃金構造基本統計調査結果の概況」から作成したものである。問題文、表1、表2及び図1を見て、あとの各問いに答えなさい。

【表1】雇用形態、性、年齢階級別賃金及び雇用形態間賃金格差（令和5年）

年齢階級	男女計			男			女		
	正社員・正職員	正社員・正職員以外		正社員・正職員	正社員・正職員以外		正社員・正職員	正社員・正職員以外	
	賃金 (千円)	賃金 (千円)	雇用形態間 賃金格差 ¹⁾	賃金 (千円)	賃金 (千円)	雇用形態間 賃金格差 ¹⁾	賃金 (千円)	賃金 (千円)	雇用形態間 賃金格差 ¹⁾
年齢計 ²⁾	336.3	226.6	67.4 (67.5)	363.6	255.0	70.1 (70.0)	281.8	203.5	72.2 (72.0)
～19歳	192.8	170.7	88.5 (91.9)	193.5	170.1	87.9 (91.4)	191.8	171.2	89.3 (93.8)
20～24	228.7	194.8	85.2 (88.8)	232.2	202.0	87.0 (92.9)	224.8	189.8	84.4 (85.5)
25～29	263.6	216.4	82.1 (83.0)	271.4	229.1	84.4 (86.3)	252.6	206.8	81.9 (81.6)
30～34	294.1	221.4	75.3 (74.7)	307.0	238.1	77.6 (77.5)	270.2	210.5	77.9 (76.7)
35～39	327.0	220.5	67.4 (65.9)	344.8	241.1	69.9 (68.3)	286.4	207.6	72.5 (71.4)
40～44	354.6	220.6	62.2 (62.6)	380.2	245.6	64.6 (65.9)	296.6	207.6	70.0 (69.2)
45～49	374.5	217.7	58.1 (58.1)	406.4	245.7	60.5 (60.6)	304.5	204.7	67.2 (67.1)
50～54	394.3	222.2	56.4 (54.7)	428.3	262.5	61.3 (57.2)	315.2	204.4	64.8 (65.1)
55～59	404.8	221.7	54.8 (54.7)	440.8	264.5	60.0 (57.4)	316.3	201.8	63.8 (64.4)
60～64	349.3	256.9	73.5 (77.1)	372.4	285.1	76.6 (80.9)	290.4	208.9	71.9 (72.0)
65～69	312.7	231.7	74.1 (74.5)	331.7	254.8	76.8 (77.0)	259.6	188.7	72.7 (71.8)
年齢(歳)	42.7	49.7		43.6	52.3		40.9	47.6	
勤続年数(年)	12.9	9.5		14.2	11.1		10.4	8.3	

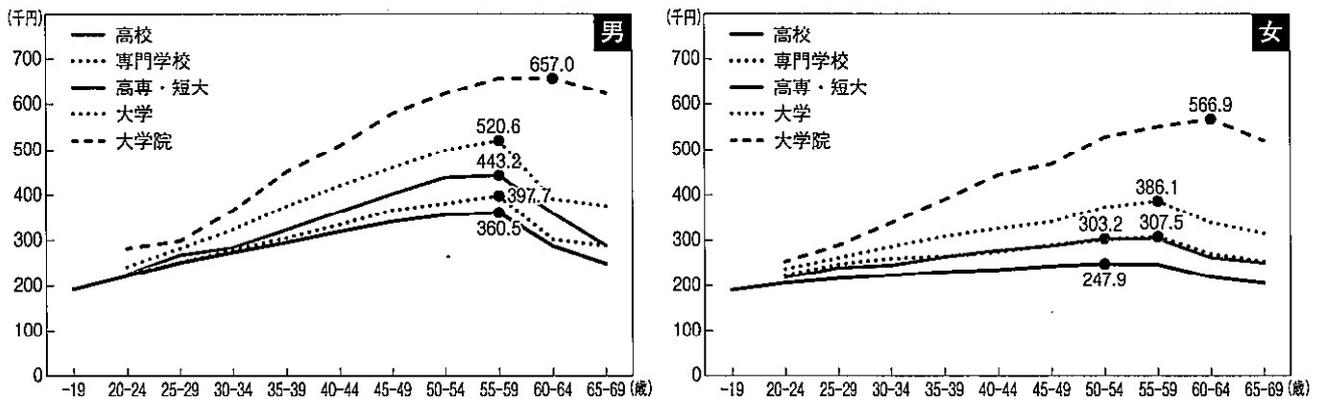
注：1）正社員・正職員=100とした値。（ ）内は、令和4年の数値である。
2）年齢計には70歳以上の労働者を含む。

【表2】性、年齢階級別賃金、対前年増減率及び年齢階級間賃金格差（令和5年）

年齢階級	男女計			男			女		
	賃金 (千円)	対前年 増減率(%)	年齢階級間 賃金格差 ¹⁾	賃金 (千円)	対前年 増減率(%)	年齢階級間 賃金格差 ¹⁾	賃金 (千円)	対前年 増減率(%)	年齢階級間 賃金格差 ¹⁾
年齢計 ²⁾	318.3	2.1	141.7	350.9	2.6	153.0	262.6	1.4	119.6
～19歳	190.0	3.1	84.6	191.1	1.8	83.3	188.4	5.6	85.8
20～24	224.6	2.8	100.0	229.3	4.0	100.0	219.6	1.5	100.0
25～29	258.3	2.8	115.0	267.8	3.3	116.8	245.8	2.1	111.9
30～34	286.0	1.8	127.3	302.1	1.7	131.7	259.6	2.2	118.2
35～39	314.8	0.7	140.2	337.9	0.6	147.4	270.1	0.7	123.0
40～44	338.8	1.5	150.8	371.8	2.3	162.1	276.8	0.4	126.0
45～49	355.7	1.9	158.4	396.9	2.3	173.1	281.7	1.1	128.3
50～54	371.1	1.8	165.2	417.7	1.7	182.2	285.9	2.4	130.2
55～59	376.4	1.7	167.6	427.4	2.6	186.4	281.7	0.6	128.3
60～64	305.9	3.5	136.2	334.2	3.9	145.7	246.6	3.9	112.3
65～69	269.8	4.7	120.1	293.3	6.8	127.9	217.1	0.4	98.9
年齢(歳)	43.9			44.6			42.6		
勤続年数(年)	12.4			13.8			9.9		

注：1）20～24歳=100とした値。
2）年齢計には70歳以上の労働者を含む。

【図1】学歴、性、年齢階級別賃金



【問題文】

わが国の賃金格差はいくつかの要因によって生まれています。

表2から男女間における賃金の格差は、年齢が高まるごとに する傾向にあるのが見て取れます。その理由は管理職や特定の職業に占める女性の割合が低いことや、女性が家事や子育てに従事する時間が男性に比べて長いことなどがあげられます。2023年12月時点の総務省の労働力調査によると、女性の非正規雇用率は男性の2倍以上です。特に子育て世代である30歳代以降、男性と女性の非正規雇用者の割合の差が拡大し、賃金格差が広がっています。

表1を見ると、令和5年の全年齢階級の男女合わせた正社員・正職員以外の賃金は正社員・正職員の約 %にとどまっています。この格差は男女ともに55～59歳にいたるまで しています。

図1を見ると、学歴による賃金格差は、学歴が高いほど賃金が高い傾向があり、男性の場合、賃金が最高額となる55～59歳では高校卒者の賃金は大学卒者の約 %にとどまり、大きな格差が生じていることがわかります。

- (1) 上の問題文中の ～ に当てはまる最も適切な語句または数値を、次の語群A～Hから選び記号で答えなさい。なお、同じ記号を何度でも使用することができます。

<語群> A. 倍増 B. 拡大 C. 半減 D. 縮小
E. 56.4 F. 67.2 G. 67.4 H. 69.2

- (2) 次の(ア)～(オ)の文について、問題文、表1、表2及び図1から読み取れる内容と一致しているものを、すべて選び記号で答えなさい。

- (ア) 令和5年の賃金は前年に比べ、全体で2.1%増加している。
- (イ) 学歴による賃金格差は、女性の場合、55～59歳では専門学校卒者の賃金は大学卒者の賃金の約79.6%である。
- (ウ) 正社員・正職員以外は、正社員・正職員との賃金格差はあるが、男女間の賃金格差はない。
- (エ) 男女間における賃金の格差が生じる理由の一つは、女性が家事や子育てに従事する時間が男性に比べて長いことがあげられる。
- (オ) 男性の勤続年数は、女性よりも長い。

(基礎総合 おわり)

学校推薦型選抜入学試験（I期）

基礎総合解答用紙

受験番号

--	--	--	--	--	--	--	--

氏名

--

問題Ⅰ	(1)												
	(2)	①				②				③			
		④											
	(3)	①				②				③			
		④											
	(4)												
	(5)												
	問題Ⅱ	(1)											
(2)													
(3)													
(4)													
(5)													
問題Ⅲ	(1)	ア			イ			ウ			エ		
	(2)												

小計

小計

小計

合計	
----	--

令和7年度 横浜創英大学〔看護学部 看護学科〕

学校推薦型選抜入学試験(第I期)

基礎総合解答例

問題 I	(1)	③							
	(2)	1	そうすい	2	きんせん	3	けいりゅう		
		4	ほんろう						
	(3)	1	交渉	2	狂奔 (競奔)	3	転換		
		4	帆走						
	(4)	⑤							
	(5)	⑤							
	問題 II	(1)	②						
		(2)	④						
		(3)	③						
(4)		④							
(5)		④							
問題 III	(1)	(ア)	B	(イ)	G	(ウ)	B	(エ)	H
	(2)	(ア)、(イ)、(エ)、(オ)							